天竜川ダム再編事業佐久間ダム環境検討委員会

設立趣意書

天竜川沿川は、これまで幾度も洪水による被害を受けており、昭和 58 年 9 月には戦後最大規模の洪水が発生し、旧天竜市（現浜松市天竜区）などで甚大な被害が生じている。

天竜川流域では、急峻な地形と破砕・変成作用を受けた脆弱な地質構造により土砂生産が活発なため、土砂流出対策を実施している。また、天竜川は急流で水量も豊富なため、治水・利水を目的とした多数のダムが建設されてきたが、堆砂によるダムの機能低下や土砂移動の連続性の遮断といった問題が発生している。

そのような中、天竜川ダム再編事業は、既設の利水専用ダム（佐久間ダム）を有効活用して新たに洪水調節機能を確保し、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守るとともに、恒久的な堆砂対策により、新たに確保した洪水調節機能を維持しつつ、ダムによる土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等へ寄与することを目指し事業を実施している。

本委員会は、天竜川ダム再編事業により佐久間ダムに整備する洪水調節施設及び恒久的な堆砂対策施設の工事の実施及び運用が佐久間ダム周辺環境へ与える影響の予測の実施、環境保全措置の検討及び評価並びにモニタリング計画の立案について助言を得ることを目的として、関連する有識者で構成する委員会を設置するものである。